



学校だより

10月号

令和8年 9月25日
横浜市長三ツ沢小学校

今、必要なのは“正解”か“適切解”か

校長 益子 照正

夏休みが明けてはや1か月が過ぎようとしています。三ツ沢っ子は、すっかり運動会モードに切り替えて学校生活を送っています。

さて、今月10日、全市立小学校の5年生を対象に横浜市教育委員会が主催する「心の教育・ふれあいコンサート」の鑑賞会があり、本校の5年生に同行してきました。会場のみなとみらいホールは、音響効果に優れていると世界的に高く評価される会場であることに加え、演奏が神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるものですから、愛好者が対価を払っても聴きたくなる本格的なクラシック音楽を堪能できたことは言うまでもありません。



ここで話題にするのは、その鑑賞の中身ではありません。三ツ沢小学校5年生の考え方です。

三ツ沢小学校を出発し、三ツ沢上町駅から地下鉄に乗車して桜木町へ。桜木町駅前広場、動く歩道、ランドマークタワー3階のショップ前通路、クイーンズスクエア3階メイン通路を経てみなとみらいホールへ移動します。本校の5年生は150人を超す大所帯ですから、二列で整列したとしても長蛇の列です。平日とはいえ、横浜の中心ともいえるエリアを進むわけですから、一般客や観光客でにぎわっているのは当然です。到着までの道のりで、地下から地上、地上から上階と進む際にはエスカレーターがあっても隣の階段を進みます。ホール入り口に到着し、入場指示を待つまでの少しの時間に、5年生に尋ねてみました。

益子 「エスカレーターがあるのに階段を歩くのはどんな気持ちなの？」

児童A 「疲れます。」「できればエスカレーターを使いたい」

益子 「それでは、どうしてエスカレーターを使わないのだと思う？」

児童B 「一般客が使いにくくなってしまうから」

児童C 「エスカレーターを必要としている人を（大人数で占拠してしまうと）待たせてしまうから」

「ほほう、とった行動の意味をしっかりと理解しているな」と感じました。

会場に着席してみると、多くの子がパンフレットを持っていないことに気づきました。

益子 「パンフレットを学校に置いてきたのはなぜ？」

児童D 「鑑賞中に音を出してしまうと、きれいな音を聴く際の邪魔になるから」

益子 「あなたは、どうして持ってきたの？」

児童E 「曲名や作曲者を確かめながら聴くことで、その音楽に対する好意が高まるから」

一昔前なら、子どもからは「先生がそう言うから」、「それは決まりだから」という回答がほとんどでした。

これから訪れる予測不可能な未来社会では、想像できない状況が待ち受けているかもしれません。そこに立ったとき、一般的にそうだと思われる「正解」より、その状況に即して最も相応しいと考えられる「適切解」が求められることに疑念はありません。

5年生の姿から、改めて学校教育の根幹を考えさせられた一日でした。

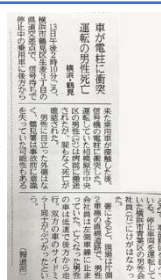
再掲 正門前での一時停止・乗降をおやめください

6月号でお知らせしましたが、児童登下校中の正門前一時停止による乗降が後を絶ちません。

5月24日に発生した事故では、正門前の重厚な看板が根こそぎ倒れました（写真1）。9月15日の新聞には、同様の追突による死亡事故発生を報道しています（写真2）。ガードレールが少ない正門前で三ツ沢っ子の生命を確実に守るために、大人の規範的な背中を見せていきたいものです。



上：写真1
右：写真2



詳しくは、
こちらへ

